

ふるさと教育 取組事例

学校名	津和野町立日原中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1	総合的な学習の時間 津和野日原合同中学生生活動報告・交流会	日原のにぎわいを創出しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・日原にぎわい創出拠点かわべ ・NPOにこはら ・まちづくりやひとづくりに関わる 様々な立場の人
ねらい	日原地区のにぎわいを創出するための探求的な学習を通して、ふるさとの良さや課題を自分との関わりで捉え、協働的に課題を解決するとともに、今後の学習や生活の在り方に積極的に生かすことができるようにする。		
<p>1 取組の概要</p> <p>小学校6年生の時に子ども議会の学習において、まちの中に賑わいを生み出す様々な提案を町議会議員に対して行なった。そこでは提案に留まっていたものを、中学生になって、総合的な学習の時間を中心にブラッシュアップを図り、自分たちにできることを考え、にぎわい創出の場をつくることにチャレンジ。まちの活性化に取り組んでいるNPO法人やにぎわい創出の拠点と連携しながら、小学校での学びを中学校でさらに広げ、深めていく学びのつながりを意識した取組。</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>課題も含めた地域の現状や、そこで生活する人々の思い、活性化のために活動している人々の熱意や工夫を、対話を通して直接学び、感じ取ることで、地域のとの関わりの中で自分にできることを深く考えることにつなげる。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>単元計画の主な学習活動において、どういった場面で、「課題を見抜く力」「対話する力」「行動・創造する力」を育むことができるかを具体化するために分解作業を行うとともに、授業のねらいを関わる大人で共有し、大人の関わり方の質を高める。</p> <p>正解のない多様な地域課題から学習課題を設定することで、オープンエンドで探求し続ける深い学びのサイクルが生まれる。また、課題の解決に向けて熱心に取り組む大人の思いとの対話(受け止める、認める、ダメだし、アドバイスなど)を通して課題解決に対する主体性を高めるとともに、自身の考えを深められるようにする。</p> <p>3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等)</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>学習を通して高めたにぎわい創出に向けた意欲や、様々な関わりを持った大人とのつながりを学校外へ広げ、自らにぎわい創出に向けたイベントを継続して企画したり、他地区との中学生同士をつなぐプロジェクトに取り組んだりする姿が見られた。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>様々な立場のひととの対話や関わりによって得た自分にはない新たな視点、クリティカルシンキングによって学びを広げることができた。</p> <p>自分たちが取り組んできたことに対して自信を持ち、より考えを深めるために様々なひとに知ってもらおう、多様なひととつながろうという気持ちを高めていた。</p>			

*取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

(このデータをHP等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。)

4 課題や今後の展望

授業をきっかけとして、活動を地域へ広げようとする生徒が増えている。主体的に学校外で学びを広げ、深める子どもたちが、力のある子、特別な子ではなく、全ての子どもたちが何らかの関わりを持ち、学校の中と外を行き来しながら学びを深めていく道筋(カリキュラムも含め)をつくっていくかなければならない。また、子どもたちの地域への思いやアクションが、まちづくりにつながっていくためのコーディネートも必要になる。コーディネーターだけに頼らない、子どもとともに大人も学んでいくことができる協働の体制づくりを、コミュニティースクールを核に取り組んでいきたい。

【学校の授業で 課題解決に向けた地域と協働の取組】



【地域の活動で考えを広げ、深める】



*取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。
(このデータを HP 等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。)